



ふるさと
鬼北の風景 No.24



松浦さんが作る機関車は、できる限り既製品に頼らず、ほとんどの部品を自作し、精巧に作り上げています。部品を自作する人は非常に珍しく、専門誌にも掲載されたそうです。製作方法は独学で、試行錯誤を繰り返し、長いもので2年近くかかったとのこと。自宅1階の作品展示室(写真③)には、これまでに製作した模型がずらりと並び、新聞・テレビなどで取り上げられた記事・写真が紹介され、松浦さんと鉄道模型の歴史を知ることができます。

屋根裏部屋には、5年がかりで完成させたNゲージレイアウト「鬼北山麓鉄道」(写真①)があり、これについても、建物などは既製品を使用していますが、山林の樹木1万本はウレタンを加工し、1本1本丁寧に自作したそうです。走る列車を眺めて「列車旅行の気分が味わえる」と笑顔の松浦さん。「自分だけが楽しむのではなく、趣味を通じて交流の輪が広がり、たくさんの人に喜んでいただいて、幸せです」と話していました。

鉄道模型に魅せられて

中学生の頃から工作が好きだったという松浦健さん(生田・76歳)は、昭和49年に石炭で走る蒸気機関車を製作。以後、人を牽引できる機関車の製作に取り組み、改良に改良を重ね、平成14年完成の電動式蒸気機関車(写真②)まで10台を製作しました。完成した機関車は、ミニSLとして県内各地のイベントで活躍。これまでに、イベントや施設へのボランティアなど80回余り出向き、子どもから大人まで多くの人を楽しませてきました。



地四国八十八か所

四国霊場を模した地四国を愛治公園内に奉祀しようと、地元有志が中心となり、88体の仏像のほか、等身大の弘法大師像(写真④)、般若心経一字一石塔、羅漢像などを建立。昭和59年に落成しました。



愛治ちんどの里

町内外のイベントに引っ張りだこの愛治ちんどんクラブ。愛治の生田地区にあるバス停(写真)には「愛治ちんどの里」と記されています。